

ムリンライフ

[Vol. 289]



世界最小級の

アマモにひそむ小さな忍者

ヒメイカの特徴は、小さいだけではなく、体の色を変えてまわりにとけこみ、アマモの葉に身をかくします。しかし、目の前に小さなエビやヨコエビのなかまが通ると、すばやく腕をのばしてつかまえ、エサの中身をかじりとり、後にはエサの殻だけが残ります。小さな体でも、立派な肉食のハンターです。また、春から初夏にはアマモの葉などに卵を産みつけます。アマモ場は、ヒメイカにとって身をかくす場所であり、エサをとる場所であり、命をつなぐ場所でもあります。小さな体、アマモにくっつく力、色を変えてかくれる能力、そしてすばやくエサをとらえる動き。ヒメイカには、イカのなかまがもつ不思議な特徴がつまっています。

ヒメイカは、潮が引いた時には、長靴で入れるような浅いアマモ場で、網を使って探すこともできます。

大潮の日の干潮時には、アマモの葉の間をそっとのぞいてみてください。見つけたときは、体の色やくっつき方、腕の動きなどをじっくり観察してみてください。アマモに付いている卵やヒメイカの赤ちゃんに出会えるかもしれません。



アマモに産みつけられた
ヒメイカの卵



ヒメイカの赤ちゃん
(全長約5mm)

- 和 名 ヒメイカ
- 学 名 *Idiosepius paradoxus*
- 分 類 軟体動物門 頭足綱 ダンゴイカ目 ヒメイカ科
- 大 き さ 胴の長さは最大でも 2cm ほど
- 生息場所 浅い海のアマモ場など
- 食 べ 物 小さな甲殻類など（肉食性）
- 特 徴 背中側から粘着物質を出してアマモにくっつくことができる

レ ア 度 ★★★★★

世界最小級のイカ

大人になっても、わずか 2~3cm ほどにしかないイカがいることを知っていますか。

一見するとイカの赤ちゃんのようにも見えますが、これで立派な大人です。その名は「ヒメイカ」。世界最小級のイカとして知られ、江田島の海でも出会うことができます。イカといえば、コウイカやアオリイカのように、海の中をスイスイ泳ぐ姿を思い浮かべる人が多いかもしれませんが。ところがヒメイカは、背中側から粘着物質を出し、アマモの葉にぴたっとくっついてることが多い、少し変わったイカです。

か き いかだ い もの 牡蠣筏の生き物

～カキ筏を利用する魚たち編～



深江沖のカキ筏



スズキ



ウマツラハギ



イソギンボ



ウミタナゴ



キジハタ

さとうみ科学館では、2025年4月から毎月、深江漁協さんに協力していただき、深江沖にあるカキ筏で生き物調査を行っています。

目的は、江田島近海に多く見られる牡蠣筏が、海の生き物たちにどのように利用されているのかを調べることです。ニュースレターNo.287では潜水した時の様子を紹介しましたが、今回は魚類に注目して、一年間どんな魚がカキ筏を利用していたのか紹介します。

大小さまざまな魚類を確認！

これまでの調査で、このカキ筏のまわりでは20種類を超える魚類が確認されました。一年間通して観察すると、魚がカキ筏をどのように使っているのかも少しずつ見えてきました。

その手がかりの一つが「定住性」です。定住性とは、魚がその場所にどのくらい長くとどまっているかを表す言葉です。今回の調査では、年間を通していつも観察された魚類はクロダイ、スズキ、アカメバル、イソギンボ、アミメハギ、カワハギ、ウマツラハギでした。磯の岩場で見られるイソギンボ、藻場に多いアミメハギやアカメバル、沿岸の浅い海を泳ぐクロダイやスズキなど、普段はそれぞれ少し違う環境で見られる魚たちが、カキ筏のまわりでは同じ場所で確認されました。これは、カキ筏が魚たちにとって「すみか」「かくれ場所」「エサ場」のような役割をもっているためだと考えられます。カキ殻や垂下連には小さな生き物が付き、それを食べる魚や、さらにその魚をねらう魚も集まります。カキ筏の水面下には、小さな生態系ができています。

キジハタ発見！

また興味深かったのは、キジハタが確認されたことです。キジハタは、岩礁や藻場、人工物の物陰などを好む魚です。そのため、海底近くや物陰にいるイメージの強い魚ですが、昼間に海底から離れたカキ筏のまわりで確認されたことは、意外でした。過去に広島大学が、江田島近海のカキ筏と周辺の魚類について調査した例がありますが、その時キジハタは確認されていませんでした。

近年、江田島市では、キジハタの種苗放流が行われており、今回見つかったキジハタが放流された個体なのかどうかは分かりませんが、カキ筏がキジハタのように物陰を好む魚にとっても、一時的な休息場所やエサ場になっている可能性があります。

人がカキを育てるために作ったカキ筏。その下には、魚たちが集まり、エサを探し、身をかくす小さな世界が広がっていました。今回の調査では1年間同じ場所の筏で観察を行いました。今後、違う場所の筏も観察することで、そこに集まる生き物の違いや、生き物から見る海域の環境の特徴が見えてくるかもしれません。

やってみよう 見てみよう

「陸の緑と海の緑」の巻

新緑の季節になると、山々は若葉の緑で美しく色づきます。では、海の中はどうでしょうか。海の中にも、季節によって海草や海藻が生い茂り、森のような景色が広がることがあります。陸上植物も海中の海草や海藻もどちらも光を使って、光合成をして成長しています。体のつくりは同じなのでしょうか？

今回は、陸上植物の葉と海中の海草・海藻を観察し、似ているところと違うところを探してみましょう。

植物の葉を見てみよう

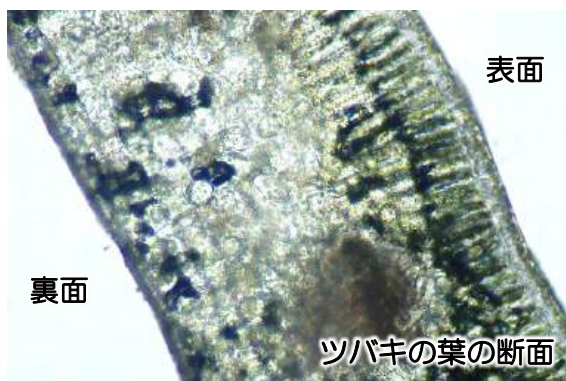
葉をうすく切ったり、表面のうすい皮をはがしたりして見ると、たくさんの細胞が並んでいます。葉の細胞の中には、緑色の小さな粒が見えます。これは葉緑体です。葉緑体では、光を使って養分をつくる光合成が行われています。葉の裏側を観察すると、気孔という小さな穴があります。気孔は、二酸化炭素や酸素、水蒸気が入り出す場所です。植物の葉は、光合成をするだけでなく、空気や水分の出入りも調節しています。乾燥に耐える陸上生活に適した特徴です。



ツバキの葉

観察のポイント

葉緑体：ある
気孔：ある
葉脈：ある
根・茎・葉の区別：ある



表面

裏面

ツバキの葉の断面

海草の葉を見てみよう

アマモ（海草）は海に生えているので海藻のように思えますが、海で生活する海草と呼ばれる植物の仲間です。

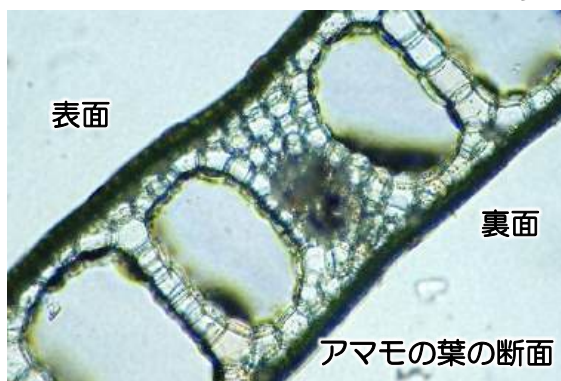
陸上植物と同じように、根・茎・葉をもち、花を咲かせ、種をつくって増えます。ただし、アマモは海の中で生活するため、陸上植物とは違う特徴もあります。例えば、下の写真のように陸上植物の葉のような裏と表の区別がなく、気孔も見られません。水中生活に適応したと考えられる特徴です。



アマモ

観察のポイント

葉緑体：ある
気孔：ない
葉脈：ある
根・茎・葉の区別：ある



表面

裏面

アマモの葉の断面

◆ 他にもあるよ！！ Let's Try ! ◆



海藻はどうだろう？

アササやワカメなどの海藻を顕微鏡で観察すると、海藻も細胞でできていて、細胞の中には光合成を行う部分があります。しかし、海藻には植物の葉のような気孔や葉脈はありません。海藻は海水中で生活しているため、体の表面から水や養分を取り入れることができます。そのため、陸上植物のように根から水を吸い上げたり、葉脈で水を運んだりするしくみは発達していません。



観察のポイント

葉緑体：ある
気孔：ない
葉脈：ない
根・茎・葉の区別：ない



ワカメ

◆ 第214回自然観察会 ◆

流れの速い転石にすむ生き物採集！

沖美町の是長沿岸は、石がゴロゴロと転がる転石帯。こういう場所では、石を裏返して、石の裏をすみかにしている生き物をさがします。ウニやヒトデ、様々な生き物がみつかりますよ～！
いっしょに“宝ものさがし”をしましょう！きっと楽しい発見が待っていますよ！！

日 時：令和8年6月13日（土）

12:30～15:30

（干潮時刻 14:00 +24cm）

集 合：沖美町入鹿海水浴場駐車場（12:30）

観察場所：沖美町是長 入鹿海岸入口付近の海岸

申し込み：令和8年6月11日（木）までに

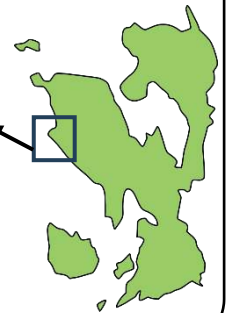
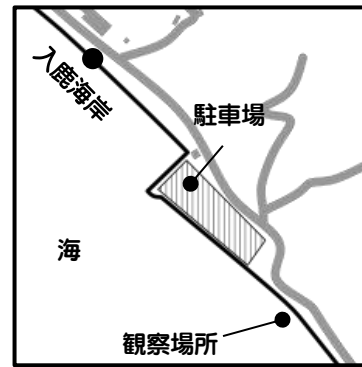
LINE 申込フォームまたは電話にて事務局
へお申し込み下さい。



申込用
QRコード

☆持ってくるもの☆

○ぼうし ○軍手 ○長靴
○水筒（飲み物）○タオルなど



潮見表 6月の観察に適した日時（干潮時刻と潮位）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
曜日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
時分	4:08	4:42	5:16	5:53	6:33	7:17	8:07	9:05	10:09	11:15	12:15	0:49	1:49	2:43	3:33
cm	131	133	135	138	141	143	143	138	125	104	77	137	134	131	129
時分	16:05	16:38	17:13	17:49	18:29	19:12	20:02	21:02	22:15	23:37		13:09	14:00	14:49	15:38
cm	32	34	40	48	60	75	93	112	128	137		49	24	4	-8
	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
曜日	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火
時分	4:22	5:09	5:56	6:43	7:32	8:22	9:18	10:21	11:27	12:26	1:08	2:03	2:48	3:26	4:00
cm	128	127	125	124	123	123	121	116	107	94	174	168	160	152	145
時分	16:27	17:15	18:03	18:50	19:37	20:26	21:22	22:34	23:57		13:16	14:00	14:40	15:18	15:54
cm	-10	-4	11	35	65	99	133	160	173		80	68	57	49	43

cmの数字が小さいほど、よく潮が引きます。

令和8年 潮汐表（海上保安庁）から

潮位30cm未満（白抜きの文字）が調査に適しています。

事務局だより

●観察会の様子がテレビで放送されました。

4月に行った第212回自然観察会「目指せ親休鼻！」の様子が広島ホームテレビ「ピタニュー」の地球派宣言コーナーで紹介されました。今回は「健脚コース」として、潮が大きく引いた海岸を歩き、江田島市最南端の親休鼻を目指しました。目的地には届きませんでしたが、80種類以上の生き物を観察。身近な海にも豊かな自然が残っていることを感じられる観察会となりました。当日の様子はYouTubeの広島ホームテレビ公式チャンネルでご覧いただけます。



●休日開館日（6月）のお知らせ

6月も毎週土曜日を開館。開館時間は9:30～17:00（入館は16:30まで）です。詳しくは事務局まで。

江田島市教育委員会 教育部 大柿自然環境体験学習交流館

さとうみ科学館

Satoumi Science Museum (SSM)

〒737-2214

広島県江田島市大柿町深江1073番地1

TEL: (0823) 57-2613

FAX: (0823) 40-3100

メール: satoumimail@yahoo.co.jp

HP: 『さとうみ科学館』で検索

◆事務局スタッフ◆

館 長：西原 直久
専 門 員：平山 良太
主 任：鎌崎 賢三
運営指導員：下中 茂樹
運営指導員：加島 茂樹
支 援 員：木村 さつき
野コーディネーター：向井 綾香



（友の会会員）

シニア 182名

ジュニア 143名

◆あとがき◆ ワカメは1年生の海藻（1年間しか生きない）で、冬から春にかけて大きくなり夏にはほとんど目にしなくなります。海では、ワカメのように冬から春に大型になる海藻が多くなるため、沿岸の浅い海中の様子は1年間で大きく変わるところがあります。（鎌崎）